



合志市社協公式キャラクター  
「あいまる」

## 共同募金配分金はこのような事業に活用されました（令和3年度事業報告より抜粋）



	事業内容	写真		事業内容	写真
災害時地域支援システム	災害発生の緊急時に備え、関係機関や各団体との情報共有を行い、迅速な支援活動ができるよう民生児童委員と密な連携を図りながら、平時から地域内での見守りシステム構築に向けた活動に取り組んでいる。 また、年末には民生児童委員と各小学校区の子ども会の協力を得て、お一人暮らしの高齢者の見守り訪問も実施している。	 歳末見守り訪問活動	モデル地区社協活動	市民による解決能力を高め、地域の見守り、ネットワーク構築の事業及び地域福祉連絡協議会への助成を実施。 各地域福祉連絡協議会で開催される高齢者を対象とした食事はコロナ禍での開催が困難であったため、形を変えてスマートフォンの使い方講座等を開催。お弁当の持ち帰りや配布形式で実施されている。	 スマートフォン使い方講座 (食事会代替行事)
療育サロン	発達に心配のある児童が、音楽や遊び（運動・おもちゃ）を通して心の安定を図り、身体機能の発達を促すとともに、仲間との関係づくりを行っていきことや、同じ悩みを持つ親同士の情報交換の場とすることを目的に実施した。	 おもちゃ図書館	民生委員児童委員協議会活動助成	主に、高齢者・障がいをもつ方等の見守りや、小学生の登校時のあいさつ運動、下校時の見守り活動など、地域で暮らす方々に寄り添う活動を行っている。 また、災害発生の緊急時に関係機関や団体と情報共有し、迅速に支援活動が出来るようにネットワーク構築のための訪問・情報の収集活動を展開。	 下校時の見守り活動
ワークキャンプ	熊本県内において、7月8月に展開されている「ボランティア体験月間」に伴い、福祉やボランティアへの関心を深める体験や講習会（ワークキャンプ）を実施。 本年度は新型コロナウイルス感染拡大に鑑み、ボランティア協力校等に参加を呼びかけ、3月にeスポーツをテーマにゲームを通じて多世代交流を図った。	 小学生ワークキャンプ	脳と体の健康増進事業	コロナ禍における認知症予防の取り組みとして、合志の昔話を活用し読み書き・計算・思い出トレーニングができる脳トレ教材「365歩の脳活①」に続き、「365歩の脳活②」を作成し、老人クラブ連合会や地域福祉連絡協議会等、コロナ禍でもできる活動の一つとして教材を活用していただくよう働きかけた。	 365歩の脳活①と②
ボランティア協力校	合志市内すべての小・中学校、特別支援学校及び高等専門学校をボランティア協力校として指定。 認知症サポーター養成、車いすや高齢者疑似体験、視覚障がい者や高齢者との関わり、新型コロナウイルスに関する福祉教育、各体験学習等を実施した。	 高齢者疑似体験	交流収穫祭	趣味活動サロンである“男の井戸端サロン”の方が管理される「ふれあい農園」で、あぐりっこのメンバーやこのみ坂保育園の園児、またデイサービスご利用の高齢者が、感染症対策を講じたうえで野菜の種まきや、から芋苗の植え付け、収穫時には芋ほり交流活動を行った。 この体験を通して、作物を育てる喜びや食への感謝の心を育み、地域のボランティアや高齢者の方々と世代を超えた交流が生まれた。	 ふれあい農園活動
ボランティア養成	音声訳ボランティア養成講座、及びフォローアップ講座等を開催。 養成講座においては、熊本県点字図書館より講師を招き、またフォローアップ講座においては、現在合志市において活動中の音声訳ボランティアグループ“こだま”の方々を講師として、実際の活動を体験していただき、音声訳を身近なものとしてとらえていただく事が出来た。それにより講座終了後、10名がボランティアグループ加入となった。	 音声訳ボランティア養成フォローアップ講座	ぼつかばかサポート	日常のちょっとしたお困りごと（例えばゴミ出しや電球交換等）のお手伝いが必要な方（利用会員）とお手伝い出来る方（協力会員）を会員として登録し、住民同士のつながり作りのきっかけとして、住民（会員）相互の支え合い活動を行った。 さらに、本事業の周知強化のため、パンフレットを作製した。	 新パンフレット